文化アセスメント対象事業（令和元年～令和4年度）経過報告

令和7年6月

市民文化局市民文化振興室

文化アセスメント対象事業経過報告書

事業名 アートガーデンかわさき特別展示室事業(川崎浮世絵ギャラリー)

部署名 市民文化局 市民文化振興室

文化アセスメント
実施年度

令和4年度(令和5年6月提言)

提言内容	令和6年度事業までの取組状況・課題	令和7年度以降の事業における取組予定
<p>1 本事業は、貴重な地域の文化資源に触れる機会の創出など、川崎の歴史的な文化資源の活用による公共性、公益性の高い、意義のある取組として、現状の企画展等の質の高さを維持しながら、継続が望ましいと考える。</p> <p>2 しかしながら、展示室の規模や東京2020大会の終了で国内外からの誘客が見込めない状況を考慮すると、市内外をターゲットにした入場者数の設定などの基本計画や運営業務などの事業スキームの抜本的な見直しを行うことが望ましい。</p> <p>3 また、魅力的な川崎の文化芸術の一つとして市民に認知をしてもらうためには、市民に向けた文化芸術の発信や触れ合う機会の提供ができるような事業の実施などを工夫する必要がある。</p> <p>4 見直しにあたっては、博物館・美術館が入場料収入と物販収入のみで人件費も含めた運営費を賄うことが現実的ではないことを踏まえ、社会情勢に影響されないよう文化芸術の振興に努め、採算性よりも鑑賞のクオリティを維持しつつ、多くの市民、特に経済的、社会的に不利な人々への配慮を考えたうえで、検討することが望ましいと考える。</p>	<p>1 川崎浮世絵ギャラリーは、希少性の高いコレクション及び川崎・神奈川県にゆかりのある作品を起点に収集された郷土性に満ちたコレクションなどを多数取り扱っており、貴重な地域の文化資源に触れる機会として、満足度の高い展示内容の企画やキャプションの作成など、企画展等の質の高さを維持しながら、運営しています。</p> <p>2 令和6年3月に「浮世絵等の活用に向けた基本計画(改訂版)」を策定し、これまでの企画展からの考察や施設規模における鑑賞できる適正な人数及び鑑賞環境の維持などを踏まえ、新たな目標入館者を設定するとともに、浮世絵ギャラリーの運営については、安定的な管理運営を確保し、文化芸術の振興を一層推進するために、運営費に対する補助を行うこととしました。 また、浮世絵ギャラリーの運営にあたっては、文化財団から、毎年、事業計画書の提出を受け、定例的に市との打ち合わせを行うことで、安定的かつ効果的な運営を行っています。</p> <p>3 認知度向上の取組として、これまでのホームページやSNS、チラシでの広報に加え、学習効果を高める体験事業の実施、また、川崎北部地域の認知度不足への対応として、巡回展の実施など、誰もが浮世絵に触れられる機会の創出を推進しました。</p> <p>4 社会情勢に影響されないような文化芸術の振興を行うため、運営費に対する補助を行い、安定的な管理運営を確保することに加え、誰もが文化芸術に触れ、参加できる環境(アート・フォー・オール)の実現に向け、多様性、包摂性、アクセシビリティ、公平性を踏まえた、浮世絵に身近に触れられる機会の拡充のため、浮世絵ギャラリーの無料開放や巡回展などのアウトリーチを行いました。</p>	<p>1 川崎浮世絵ギャラリーは、希少性の高いコレクション及び川崎・神奈川県にゆかりのある作品を起点に収集された郷土性に満ちたコレクションなどを多数取り扱っているため、貴重な地域の文化資源に触れる機会として、引き続き、満足度の高い展示内容の企画やキャプションの作成など、企画展等の質の高さを維持しながら、川崎浮世絵ギャラリーの運営を継続します。</p> <p>2 令和6年3月に「浮世絵等の活用に向けた基本計画(改訂版)」を策定し、浮世絵ギャラリーの運営について、新たな目標入館者を設定するとともに、安定的な管理運営を確保し、文化芸術の振興を一層推進するために、運営費に対する補助を行うこととし、また、文化財団から、毎年、事業計画書の提出を受け、定例的に市との打ち合わせを行うなど、安定的かつ効果的な運営を行っています。</p> <p>3 認知度向上の取組として、これまでのホームページやSNS、チラシでの広報に加え、学習効果を高める体験事業の実施、民間事業者との連携、レプリカを活用した巡回展の実施など、誰もが浮世絵に触れられる機会の創出を図っていきます。</p> <p>4 社会情勢に影響されないような文化芸術の振興を行うため、引き続き運営費に対する補助を行い、安定的な管理運営を確保することに加え、誰もが文化芸術に触れ、参加できる環境(アート・フォー・オール)の実現に向け、多様性、包摂性、アクセシビリティ、公平性を踏まえた、浮世絵に身近に触れられる機会の拡充のため、巡回展などのアウトリーチを行います。</p>

文化アセスメント対象事業経過報告書

事業名 文化芸術活動等の各種動画配信事業
(川崎シンフォニーホール管理運営事業)

部署名 市民文化局 市民文化振興室

文化アセスメント
実施年度

令和3年度(令和4年12月提言)

提言内容	令和6年度事業までの取組状況・課題	令和7年度以降の事業における取組予定
<p>1 オンライン配信と一口にいっても、オーケストラと演劇や美術など分野によって、やるべきこと、やりたいことが相当違い、分野ごとに多様な創意工夫が必要である。また、収益性を求める事業から普及活動といった公益性の高い事業まで多様な事業があり、それにふさわしい体制、コンテンツが必要と考える。</p> <p>2 動画を作成・投稿するだけでなく、より多くの芸術文化の担い手に対し情報が届くよう、広報媒体や手段の更なる改善が必要であるとともに、様々なコンテンツを集め発信できる共通の場を作りアーカイブとして残していくなど、ある種のチャンネル運営、マーケティング的な観点も必要と考える。</p> <p>3 オンライン配信は実際の鑑賞の代替だけではなく、多くの利点と、普遍的な価値を備えており、コロナ終息後も、継続が望ましい事業もあると考える。</p> <p>4 素人とプロの間には専門的な知見などに圧倒的な差があることから、プロの手を借りるべき部分とSNSでの発信など素人でもできる部分との棲み分け、関係性も大切である。特にプロの手による本格的な文化芸術コンテンツの配信においては、現時点では売上等の収益のみでコストを賄うことは困難な現状もあることから、今後、公的予算を使った映像配信を事業化する際には、権利関係の整理なども含め、費用対効果の面でも十分な検討を行う必要があると考える。</p> <p>【参考 評価事業】 フェスタサマーミュージアのオンライン公演 主要事業である「フェスタサマーミュージア」のオンライン配信を行うことで、コロナ禍で音楽鑑賞の機会が失われている市民等に良質な音楽を提供する(配信視聴回数:約16,800回)</p>	<p>1 外出が困難な方やクラシック音楽に興味がある方に気軽にコンサートを楽しんでいただくため、新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応終了後も引き続き主催事業である名曲全集(6公演)について、「ニコニコ東京交響楽団」による無料生配信を行いました。当該配信事業については、音質、撮影技術など、本格的なクラシックコンサートとして一定の品質を確保する必要があるため多額のコストがかかることが課題となっています。 また、東響ミニコンサートやフェスタサマーミュージアKAWASAKIオープニング・ファンファーレなど、ホールへの来場が難しい方のためにYouTubeを活用したライブ配信を行いました。</p> <p>2 広報の際には、X、Facebook、Instagram、Youtube等を活用し、状況に応じて積極的なWeb広報・広告を実施しました。ウェブアクセシビリティを高めるため、令和5年に公式サイトを全面リニューアル(達成等級JIS-X 8341-3:2016の適合レベルA4)を実施し、より使いやすいホームページの運営を行いました。</p> <p>3 1のとおりです。</p> <p>4 配信業者によるオンライン配信は、ホールに配信機材や配線が整備されていないことから、公演の都度、機材や配線を設置する等、一定のコストがかかりますが、一定数の視聴者を確保できる視聴価格帯を踏まえると、継続的なオンライン配信の提供については費用対効果の面で十分な検討が必要となります。</p>	<p>1 新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応を機に、オンライン配信を開始しましたが、多様な手段による文化芸術の普及・啓発は必要であるため、引き続き、指定管理者、東響交響楽団、利用者等の関係者の意見、要望等を踏まえて、オンライン配信の取組について検討を進めてまいります。</p> <p>2 今後も利用者の利便性向上や要望等を踏まえ、より使いやすいホームページを運営します。</p> <p>3 令和7年度も主催事業である名曲全集(6公演)について「ニコニコ東京交響楽団」による無料ライブ配信を、また、フェスタサマーミュージアKAWASAKIオープニング・ファンファーレについてもYouTubeを活用したライブ配信を行う予定です。</p> <p>4 今後、ホールの大規模修繕等でオンライン配信に対応した施設への改修を検討するなど、気軽に公演を楽しめる環境づくりを推進していくとともに、あらゆる人に音楽との多様な関わり方を提案し、誰もが文化芸術に親しむことができるホールを目指して、引き続き、適切な施設運営に取り組んでまいります。</p>

文化アセスメント対象事業経過報告書

事業名 文化芸術活動等の各種動画配信事業
(アートセンター管理運営事業)

部署名 市民文化局 市民文化振興室

文化アセスメント
実施年度

令和3年度(令和4年12月提言)

提言内容	令和6年度事業までの取組状況・課題	令和7年度以降の事業における取組予定
<p>1 オンライン配信と一口にいっても、オーケストラと演劇や美術など分野によって、やるべきこと、やりたいことが相当違い、分野ごとに多様な創意工夫が必要である。また、収益性を求める事業から普及活動といった公益性の高い事業まで多様な事業があり、それにふさわしい体制、コンテンツが必要と考える。</p> <p>2 動画を作成・投稿するだけでなく、より多くの芸術文化の担い手に対し情報が届くよう、広報媒体や手段の更なる改善が必要であるとともに、様々なコンテンツを集め発信できる共通の場を作りアーカイブとして残していくなど、ある種のチャンネル運営、マーケティング的な観点も必要と考える。</p> <p>3 オンライン配信は実際の鑑賞の代替だけではなく、多くの利点と、普遍的な価値を備えており、コロナ終息後も、継続が望ましい事業もあると考える。</p> <p>4 素人とプロの間には専門的な知見などに圧倒的な差があることから、プロの手を借りるべき部分とSNSでの発信など素人でもできる部分との棲み分け、関係性も大切である。特にプロの手による本格的な文化芸術コンテンツの配信においては、現時点では売上等の収益のみでコストを賄うことは困難な現状もあることから、今後、公的予算を使った映像配信を事業化する際には、権利関係の整理なども含め、費用対効果の面でも十分な検討を行う必要があると考える。</p> <p>【参考 評価事業】 ①「桜の園～四幕の喜劇～」 ②「劇団わが町第10回公演「グスコブドリの伝記」 アルテリオ小劇場の主催事業で、ライブ配信を併せて行い、劇場に来られないお客様の鑑賞機会確保と共に、コロナ禍での事業実施手法を検討する。(有料オンライン配信視聴者233人)</p>	<p>1 主催事業である演劇公演(しんゆりシアター)において、様々な事情で会場に来られない市民に、劇場との接点を継続的に提供することを目的としたライブ配信を令和2年度から4年度まで実施しましたが、公演を配信する際は専門業者にカメラワークを依頼するなど高額なコストがかかることから、収益を勘案した結果、令和5年度はライブ配信の実施に至りませんでした。令和6年度も主催事業の公演の配信には至りませんでした。貸館事業の公演の本番配信や、共催事業の館内配信やオンライントークイベントに活用しました。</p> <p>2 ライブ配信を実施する際には、SNS等も含めて周知に取り組みとともに、劇場での実演とそのライブ配信というハイブリット形式で公演を実施し、ライブ配信の申込者には一定期間のアーカイブ配信の視聴を可能とするなど時間的な制約なく鑑賞できる配慮を行ってまいりました。</p> <p>3 コロナ禍において配備したV-LANシステムに関し、小劇場での演劇公演のライブ配信を行うだけでなく、オンライントークイベント等を実施しましたが、限定的な活用に留まりました。</p> <p>4 配信公演については、現場の緊張感も伝えられるシンプルなライブ配信の形態で実施しました。また、V-LAN等の設備を活用したイベントの配信等により、施設としての利用価値向上に努めました。一方で、コロナが5類感染症に移行し外出制限等の規制が無くなった中、オンライン配信の実施については、費用対効果の面でも十分な検討が必要となっています。</p>	<p>1 主催事業である演劇公演(しんゆりシアター)において、様々な事情で会場に来られない市民に、劇場との接点を継続的に提供することを目的としたライブ配信を令和2年度から4年度まで実施していましたが、公演を配信する場合は、専門業者にカメラワークを依頼するなど高額なコストがかかることから、費用対効果の面で十分に検討する必要があります。</p> <p>2 ライブ配信を実施する際には、SNS等も含めて周知に取り組みとともに、劇場での実演とそのライブ配信というハイブリット形式で公演を実施し、ライブ配信の申込者には一定期間のアーカイブ配信の視聴を可能とするなど時間的な制約なく鑑賞できる配慮を行ってまいります。</p> <p>3 コロナ禍において配備したV-LANシステムを活用し、演劇公演のライブ配信を実施してきましたが、配信には高額なコストがかかることから、費用対効果の面で十分に検討する必要があります。オンライン配信については実施手法の一つとして認識し、トークイベントの実施など施設の文化発信拠点としての役割強化を目的とした活用を検討していきます。</p> <p>4 演劇の公演のオンライン配信は、高額なコストがかかることから費用対効果の面で十分な検討が必要となります。来場できない方に対して効果的な取組ではありますが、売上等の収益のみでコストを賄うことは困難な現状もあり、オンライン配信についても実施手法の一つと認識したうえで、今後も適切な事業の実施に取り組んでまいります。</p>

文化アセスメント対象事業経過報告書

事業名 文化芸術活動等の各種動画配信事業
(文化財団)

部署名 市民文化局 市民文化振興室

文化アセスメント
実施年度

令和3年度(令和4年12月提言)

提言内容	令和6年度事業までの取組状況・課題	令和7年度以降の事業における取組予定
<p>1 オンライン配信と一口にいっても、オーケストラと演劇や美術など分野によって、やるべきこと、やりたいことが相当違い、分野ごとに多様な創意工夫が必要である。また、収益性を求める事業から普及活動といった公益性の高い事業まで多様な事業があり、それにふさわしい体制、コンテンツが必要と考える。</p> <p>2 動画を作成・投稿するだけでなく、より多くの芸術文化の担い手に対し情報が届くよう、広報媒体や手段の更なる改善が必要であるとともに、様々なコンテンツを集め発信できる共通の場を作りアーカイブとして残していくなど、ある種のチャンネル運営、マーケティング的な観点も必要と考える。</p> <p>3 オンライン配信は実際の鑑賞の代替だけではなく、多くの利点と、普遍的な価値を備えており、コロナ終息後も、継続が望ましい事業もあると考える。</p> <p>4 素人とプロの間には専門的な知見などに圧倒的な差があることから、プロの手を借りるべき部分とSNSでの発信など素人でもできる部分との棲み分け、関係性も大切である。特にプロの手による本格的な文化芸術コンテンツの配信においては、現時点では売上等の収益のみでコストを賄うことは困難な現状もあることから、今後、公的予算を使った映像配信を事業化する際には、権利関係の整理なども含め、費用対効果の面でも十分な検討を行う必要があると考える。</p> <p>【参考 評価事業】 ①ミュートンと行く♪川崎能楽堂探検！ コロナ禍で能楽堂の来場が困難な中、能楽堂及び能楽の紹介動画を通し、能楽堂を知り、能楽に興味を持っていただき、伝統芸能の普及・発展に繋げる。 ②能楽師による解説「第121回川崎市定期能事前講座」 定期能(2020.12)のチケット購入者向けに実施した事前講座について、講座当日に来場できない方も、自宅等で動画により観られるように配信を実施(視聴回数計842回(R3.10.11日現在))</p>	<p>1 コロナ禍で来場が困難な中、能楽やバラアートの普及・発展に繋げることを目的に能楽のPR動画やバラアートのオンライン展示会を実施しました。 また、サービス向上や収益性を高めるため、定期能のチケット購入者向けに能楽師による解説動画の配信を行いました。 「音楽のまち・かわさき」では情報提供先の一部としてオンライン配信を使うのではなく、オンラインでしかできないコミュニケーション施策に取り組んでいます。周年事業として実施した「わたしのかわさきのうた」CMソングコンテストでは、公募で集まった音源を映像化し、配信および人気投票を実施しました。さらにこのコンテストの波及効果として、川崎市まちづくり局が本事業で制作された楽曲を使って川崎の景観PR動画を作成し、YouTubeで公開しています。このような活動を通じ、実演を前提とした集客のための宣伝活動や実演の代替としての配信以外に目を向け、オンラインでの可能性を開いていくためには、まだまだ職員のスキルが不足しており、他の事例を検討したり、実践を重ねて知見を増やしていくことが必要だという課題を認識しました。</p> <p>2 事業の事前周知及びアーカイブのための新たな取組として、令和6年度よりメディアプラットフォーム「note」に川崎市文化財団公式アカウントを開設し、インタビューや事後レポート記事を投稿・発信しました。紙媒体やウェブサイトからのアクセスを促し、より具体的に事業の様子を伝える手段として活用しています。また、音楽のまちかわさき関連では、以前からかわさきFMやテレビ神奈川に番組を提供し、音楽イベントや音楽家、市内音楽イベントの紹介を行うとともに、YouTubeにおいて「ミュートンチャンネル」を開設し、市内音楽イベントの録画の配信や子供の音楽活動を促進するためのリズム遊び動画などを配信しています。</p> <p>3 オンライン配信については、事業によっては新型コロナウイルスの影響の有無に関わらず、取り組むべき事業と認識していますが、制作にかかる業務負担に比べて効果が薄いことが課題となっています。</p> <p>4 文化情報の発信については、SNS等による効果的な発信を引き続き行っていますが、本格的な文化芸術コンテンツとしての有料配信については、オンライン配信における効果や、収益のみでコストを賄うことは困難であること等の課題を踏まえ、検討しています。</p>	<p>1 能楽やバラアートの普及・発展に繋げることを目的にPR動画やオンライン展示会を実施していますが、多様な手段による文化芸術の普及・啓発は必要であるため、引き続き、事業内容に合った情報発信等を検討していきます。 「音楽のまち・かわさき」ではテレビ神奈川の提供番組を通じ、年間6回を目標として市内音楽イベントや音楽家を映像で紹介していきます。また、SNSにおいても、昨年より実施している比較的取り組みやすいショート動画の配信を通じ、職員のスキルアップおよび市民とのコミュニケーションを図っていきます。</p> <p>2 情報がより多くの芸術文化の担い手に対し届くよう、引き続き、既存のメディアプラットフォーム等の効果的な活用を努めます。</p> <p>3 オンライン配信については、事業によっては取り組むべきものもあると認識しているため、課題や他の事例等も参考に引き続き検討していきます。</p> <p>4 文化情報の発信については、SNS等による効果的な発信を引き続き行っていますが、本格的な文化芸術コンテンツとしての有料配信については、オンライン配信における効果や、収益のみでコストを賄うことは困難であること等の課題を踏まえ、検討していきます。</p>

文化アセスメント対象事業経過報告書

事業名 文化芸術活動等の各種動画配信事業
(映像のまち・かわさき推進フォーラム)

部署名 市民文化局 市民文化振興室

文化アセスメント
実施年度

令和3年度(令和4年12月提言)

提言内容	令和6年度事業までの取組状況・課題	令和7年度以降の事業における取組予定
<p>1 オンライン配信と一口にいっても、オーケストラと演劇や美術など分野によって、やるべきこと、やりたいことが相当違い、分野ごとに多様な創意工夫が必要である。また、収益性を求める事業から普及活動といった公益性の高い事業まで多様な事業があり、それにふさわしい体制、コンテンツが必要と考える。</p> <p>2 動画を作成・投稿するだけでなく、より多くの芸術文化の担い手に対し情報が届くよう、広報媒体や手段の更なる改善が必要であるとともに、様々なコンテンツを集め発信できる共通の場を作りアーカイブとして残していくなど、ある種のチャンネル運営、マーケティング的な観点も必要と考える。</p> <p>3 オンライン配信は実際の鑑賞の代替だけではなく、多くの利点と、普遍的な価値を備えており、コロナ終息後も、継続が望ましい事業もあると考える。</p> <p>4 素人とプロの間には専門的な知見などに圧倒的な差があることから、プロの手を借りるべき部分とSNSでの発信など素人でもできる部分との棲み分け、関係性も大切である。特にプロの手による本格的な文化芸術コンテンツの配信においては、現時点では売上等の収益のみでコストを賄うことは困難な現状もあることから、今後、公的予算を使った映像配信を事業化する際には、権利関係の整理なども含め、費用対効果の面でも十分な検討を行う必要があると考える。</p> <p>【参考 評価事業】 ①コロナ禍での『カワサキハロウィン』と映像の活用事例 ②コロナ禍での映像表現 ③コロナ禍が映画と私たちに遺すもの コロナ禍の中、映像制作や映像を用いたイベントは、形を変え発展しており、映像業界に精通する講師のセミナーの配信やケーブルテレビでの放映により、映像産業の現状と映像の活用事例を中心に、映像の持つ可能性と今後の影響などを、コロナ禍による制約の中でも学んでもらう。(オンライン配信視聴回数計170回(R3.10.11日現在))</p>	<p>1、2 市内の映像関連事業者等との連携や制作した動画をアーカイブとして残す「映像のまち・かわさき」チャンネル(YouTube)などの取組を継続して進めました。</p> <p>3 オンライン配信は多くの利点があることから「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの運営委員会や全体交流会の開催について、オンライン配信と対面式のハイブリッド形式で実施しました。</p> <p>4 「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの運営委員会を中心に各種事業内容を確認しながら、手法の一つとしてオンライン配信を実施しました。</p>	<p>1、2 市内の映像関連事業者等との連携や制作した動画をアーカイブとして残す「映像のまち・かわさき」チャンネル(YouTube)などの取組を継続して進めてまいります。</p> <p>3 オンライン配信は多くの利点があることから「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの運営委員会等の開催について、オンライン配信と対面式のハイブリッド形式で実施してまいります。</p> <p>4 「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの運営委員会を中心に各種事業内容を確認しながら、手法の一つとしてオンライン配信を実施してまいります。</p>

文化アセスメント対象事業経過報告書

<p>事業名 パラアート推進事業</p> <p>部署名 市民文化局 市民文化振興室</p>	<p>文化アセスメント 実施年度</p>	<p>令和元年度(令和2年12月提言)</p>
<p>提言内容</p>	<p>令和6年度事業までの取組状況・課題</p>	<p>令和7年度以降の事業における取組予定</p>
<p>1 関係者のみならず幅広く市民に事業を周知し、事業の意義・目的を理解してもらうために、広報の幅を広げるとともに、巡回展の拡充や通年展示の検討など、市民がパラアートに触れる機会を増やす取組が求められる。</p> <p>2 障害の特性や遠方に在住、その他様々な事情により会場に来られない人が事業に参加、鑑賞できるように、オンライン技術を積極的に活用した取組が望まれる。</p> <p>3 ダイバーシティ(多様性)とソーシャルインクルージョン(社会的包摂)を、より一層推進するためには、関係者だけでなく、一般企業、団体、市民との協働、連携を広げるための取組の充実や、それらの連携先を巻き込んだ推進体制の構築が必要である。</p> <p>4 東京2020オリンピック・パラリンピック後も、障害の有無にかかわらず誰もが文化芸術に参加できる環境づくりを進めるため、長期的な財源確保策を講じながら、参加しやすい事業内容や会場を選択したり、常に新たなアーティストを発掘できるような仕組みづくりを構築するなど効果的・効率的な手法により事業を継続することが望まれる。</p>	<p>1 広報については、市政だより、チラシ、市ホームページ、文化財団ホームページ、情報サイト「ばらあーとねっと」で広報の充実を図るとともに、令和5年度にリニューアルした事業パンフレットを活用し、広く周知しました。パラアート展覧会の巡回展は、市内外から多くの美術愛好家が訪れる岡本太郎美術館にて実施しました。また、川崎市役所本庁舎の25階にて展示を行い来庁者に鑑賞していただく機会を設けました。さらに、生涯学習プラザや川崎市青少年の家にて常設展示を行い、多くの市民がパラアートに触れる機会を増やしました。その際、出展団体の自主的な展示活動につながるよう、出展団体と展示ノウハウの共有を図りました。社会福祉法人や民間企業が主体的にまちなか等でパラアート作品を展示する機会も増えてきていることから、情報サイトやSNSで情報を紹介しました。</p> <p>2 パラアート展覧会のオンライン配信に加え、委託事業の成果もホームページに掲載することで、会場に来られない人などの鑑賞機会を確保しました。SNSの発信も積極的に行い、インスタグラムのフォロワーは1年間で180名ほど増えました。令和6年度から川崎市文化財団公式アカウントを開設したメディアプラットフォーム「note」を新たに活用し、写真付きで具体的な事業報告を発信しました。</p> <p>3 事業実施にあたっては、市内特別支援学校や障害福祉施設等と連携するとともに、パラアート展覧会等のノウハウを活かし、連携プログラムとして昨年度に引き続き一般企業や市民団体と連携し、商業施設やコミュニティカフェでの作品展等を実施しました。(連携プログラム4事業)また、パラアート・ミーティングをきっかけに市民団体同士の交流や自発的な連携が生まれるなどの成果もありました。さらに、初の試みとして川崎市「アートコミュニティ形成プロジェクト」と協働し、アートコミュニケーターを志す公募市民と共に対話型鑑賞会を実施するなど、ダイバーシティとソーシャルインクルージョンをより一層推進しました。対話型鑑賞会の取組は、補助金の交付を受けている文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」の講評でも高い評価を受けました。</p> <p>4 パラアート展覧会の開催にあたり、協賛金の募集を行い、長期的な財源確保策を講じました。会場については、現状を勘案すると、他会場では様々な困難が懸念されることから、当面は巡回展の充実と併せて検討して参ります。また、川崎市障害福祉施設事業協会を通して幅広く参加を呼びかけた結果、新たに7施設の参加がありました。希望施設には絵画講師を派遣し出張指導を実施したほか、新たに生成AIによる制作アドバイスや感想の生成を行い、NHKのニュースでも取り上げられ話題となりました。会期中には話題の生成AIを用いたワークショップ等を開催したり、近隣中学校特別支援級の見学を招致する(6校)など、誰もが参加しやすい環境づくりに向けた取組を行いました。</p>	<p>1 広報については、市政だより、チラシ、市ホームページ、文化財団ホームページ、SNS、庁舎デジタルサイネージ、令和6年度から新たに開始した「note」等の活用により、幅広く市民に事業を周知します。また、より多くの市民が観覧できる場所で展示するパラアート展覧会の巡回展については、市の施設や民間施設などから新たな開催場所を検討し、実施します。また、通年展示については、引き続き出展団体と連携して行うことで、出展団体の自主的な活動につながるようノウハウの蓄積を図ります。さらに社会福祉法人や民間企業が主体的にパラアート作品を展示している情報を紹介するなど、多くの市民がパラアートに触れる機会を増やします。</p> <p>2 情報サイト「ばらあーとねっと」にてパラアート展覧会のホームページでのオンライン配信に加え、SNSで写真による事業報告を増やすなど、オンライン技術を積極的に活用した取組を行います。</p> <p>3 一般企業、団体、市民との協働、連携を拡大する取組として、学校と連携し、特別支援級の生徒たちがパラアートに触れる機会を創出するなど、連携先を巻き込んだ推進体制の構築についても引き続き取組みます。また、これまで展覧会におけるアート企画はアートディレクターが中心となって行っていたところ、第9回目を迎える今年度は、地域で活躍するプロのアーティスト等も巻き込みながら企画を考えるなど、ダイバーシティとソーシャルインクルージョンをより一層推進します。</p> <p>4 事業内容については、長期的な財源確保としてパラアート展覧会の協賛金の募集を引き続き行います。誰もが参加しやすい企画や会場の検討も引き続き行います。新たなアーティストは毎年着実に増えているため、一般企業からの相談などに積極的に協力し、展示や活躍の場を増やすなど、効率的に事業を活性化させ、継続します。</p>